

■東京スプリント (JpnIII) アラカルト (過去全 34 回の分析)

※第 1 回 (平成 3 年) から第 19 回 (平成 21 年) までは「東京シティ盃」の名称で実施

※平成 21 年は同年に第 19 回 (東京シティ盃)、第 20 回 (東京スプリント) を実施。よって本稿の分析対象は過去 32 年間の計 33 回とする。

※第 1 回 (平成 3 年) から第 11 回 (平成 13 年) まで、第 14 回 (平成 16 年) から第 16 回 (平成 18 年) までは 1,400m で実施

※第 12 回 (平成 14 年)、第 13 回 (平成 15 年) は 1,390m で実施

※第 1 回 (平成 3 年) から第 19 回 (平成 21 年) までは 1~3 月に実施

※記録は令和 6 年 3 月 27 日時点

■ 1 番人気馬の安定感が際立っている

単勝 1 番人気馬は 17 勝、2 着 7 回、3 着 3 回で、3 着内率が 79.4%、単勝 2 番人気馬は 3 勝、2 着 7 回、3 着 3 回で、3 着内率が 38.2%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 7 回、3 着 5 回で、3 着内率が 44.1%となっている。単勝 1 番人気馬の成績が非常に良いレースだ。

■ 7 割近い回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 34 回のうち 23 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■ 高齢馬の優勝例も少なくない

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 6 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 9 勝、7 歳が 7 勝、8 歳が 2 勝、9 歳が 2 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言えるだろう。

■ 2年連続の優勝を果たした馬は未だゼロ

複数回の優勝経験がある馬は、第17回（平成19年）と第19回（平成21年）のフジノウエーブ、第32回（令和3年）と第34回（令和5年）のリユウノユキナと、2頭いる。なお“連覇”を達成した馬はまだいない。

■ 牝馬、外国産馬とも2勝をマーク

牝馬の優勝例は第24回（平成25年）のラブミーチャン、第27回（平成28年）のコーリンベリーと、2回ある。また、外国産馬の優勝例も第21回（平成22年）のスーニ、第26回（平成27年）のダノンレジェンドと、2回ある。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「3」

騎手別の勝利数を見ると、3勝の石崎隆之騎手、内田博幸騎手、早田秀治騎手、御神本訓史騎手がトップタイ、2勝の的場文男騎手が単独5位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の高橋三郎調教師が単独トップ。小野次郎調教師、高岩隆調教師が2勝で2位タイとなっている。

■ 1枠が好成績

枠番別勝利数を見ると、1枠（8勝）が単独トップ、4枠と7枠（各5勝）が2位タイ、2枠と3枠（各4勝）が4位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、2番（5勝）が単独トップ、1番、3番、6番（各4勝）が2位タイ、8番（3勝）が単独4位だ。なお、未勝利の馬番は15番だけである。

<伊吹雅也>